

# ドイツ文学専修

| 授業科目       | 講義題目                                      | 単位 | 担当教員氏名   | 開講<br>セメスター | 曜日 | 講時 | 頁  |
|------------|-------------------------------------------|----|----------|-------------|----|----|----|
| ドイツ文学概論Ⅰ   | ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 1                   | 2  | 森本 浩一    | 3           | 水  | 4  | 1  |
| ドイツ文学概論Ⅱ   | ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 2                   | 2  | 森本 浩一    | 4           | 水  | 4  | 2  |
| ドイツ語学概論Ⅰ   | 中級ドイツ文法                                   | 2  | 嶋崎 啓     | 3           | 水  | 2  | 3  |
| ドイツ語学概論Ⅱ   | 中級ドイツ文法                                   | 2  | 嶋崎 啓     | 4           | 水  | 2  | 4  |
| ドイツ語学基礎講読Ⅰ | ドイツ文学基礎講読                                 | 2  | ナロック ハイコ | 3           | 火  | 1  | 5  |
| ドイツ語学基礎講読Ⅱ | ドイツ文学基礎講読                                 | 2  | ナロック ハイコ | 4           | 火  | 1  | 6  |
| ドイツ文学各論Ⅰ   | ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(3)                        | 2  | 佐藤 雪野    | 5           | 火  | 2  | 7  |
| ドイツ文学各論Ⅱ   | ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(4)                        | 2  | 佐藤 雪野    | 6           | 火  | 2  | 8  |
| ドイツ文学各論Ⅲ   | 近現代ドイツ・オーストリア文学概論                         | 2  | 里村 和秋    | 集中(6)       |    |    | 9  |
| ドイツ語学各論    | カフカを読む                                    | 2  | 森本 浩一    | 5           | 月  | 3  | 10 |
| ドイツ語学各論    | カフカを読む                                    | 2  | 森本 浩一    | 6           | 月  | 3  | 11 |
| ドイツ文学演習Ⅰ   | フィクションの物語を批評する 1                          | 2  | 森本 浩一    | 5           | 金  | 3  | 12 |
| ドイツ文学演習Ⅱ   | フィクションの物語を批評する 2                          | 2  | 森本 浩一    | 6           | 金  | 3  | 13 |
| ドイツ文学演習Ⅲ   | 十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅱ) | 2  | 佐藤 研一    | 5           | 木  | 4  | 14 |
| ドイツ文学演習Ⅳ   | 十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅲ) | 2  | 佐藤 研一    | 6           | 木  | 4  | 15 |
| ドイツ語学演習Ⅰ   | ドイツ語学演習Ⅲ                                  | 2  | ナロック ハイコ | 5           | 水  | 3  | 16 |
| ドイツ語学演習Ⅱ   | ドイツ語学演習Ⅲ                                  | 2  | ナロック ハイコ | 6           | 水  | 3  | 17 |
| ドイツ語学演習Ⅲ   | 中高ドイツ語講読                                  | 2  | 嶋崎 啓     | 5           | 月  | 2  | 18 |
| ドイツ語学演習Ⅳ   | 中高ドイツ語講読                                  | 2  | 嶋崎 啓     | 6           | 月  | 2  | 19 |

**科目名：ドイツ文学概論 I / German Literature (General Lecture) I**

**曜日・講時：**前期 水曜日 4 講時

**セメスター：**3, **単位数：**2

**担当教員：**森本 浩一（教授）

**講義コード：**LB33401, **科目ナンバリング：**LHM-LIT204J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 1

**2. Course Title (授業題目)：**

History and culture of the German-speaking sphere in the European context 1

**3. 授業の目的と概要：**

「ドイツ語圏」の歴史と文化に関する基礎的知識の習得を目的として、歴史上の重要なトピックを取り上げて概説する。今期は古代から 16 世紀までを扱う。「ヨーロッパ」という文脈を常に意識し、そこにおけるドイツの特色は何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心を有していることが望ましい。

**4. 学習の到達目標：**

ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ近代の歴史と文化に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ゲルマン人
2. 古典古代(1)
3. 古典古代(2)
4. キリスト教(1)
5. キリスト教(2)
6. フランク王国と「ヨーロッパ」の成立(1)
7. フランク王国と「ヨーロッパ」の成立(1)
8. 神聖ローマ帝国(1)
9. 神聖ローマ帝国(2)
10. 12～13 世紀のヨーロッパ
11. 過渡期の帝国
12. 中世の終わり
13. 宗教改革
14. 16 世紀のヨーロッパ
15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

おおむね、出席（30％）と期末レポート（70％）。

**7. 教科書および参考書：**

参考書としては、坂井栄八郎『ドイツ 10 講』、岩波新書、2003 年。その他は、授業中に指示する。

**8. 授業時間外学習：**

特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、日常的にこの「世界」の現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。

**9. その他：**

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることを。

m2rt@tohoku.ac.jp （森本浩一）

xkc-

**科目名：ドイツ文学概論Ⅱ／ German Literature (General Lecture)II**

**曜日・講時：**後期 水曜日 4 講時

**セメスター：**4, **単位数：**2

**担当教員：**森本 浩一（教授）

**講義コード：**LB43401, **科目ナンバリング：**LHM-LIT205J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 2

**2. Course Title (授業題目)：**

History and culture of the German-speaking sphere in the European context 2

**3. 授業の目的と概要：**

「ドイツ語圏」の歴史と文化に関する基礎的知識の習得を目的として、歴史上の重要なトピックを取り上げて概説する。今期は 17 世紀から現代までを扱う。「ヨーロッパ」という文脈を常に意識し、そこにおけるドイツの特色は何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心を有していることが望ましい。

**4. 学習の到達目標：**

ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ近代の歴史と文化に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 中世のドイツ（要約）
- 2 キリスト教と宗教改革
- 3 30 年戦争とその後
- 4 ドイツ語圏の文化と思想(1)
- 5 プロイセンの成立と発展
- 6 18 世紀のドイツ語圏
- 7 フランス革命とその余波（19 世紀）
- 8 ドイツ語圏の文化と思想(2)
- 9 ドイツ帝国の半世紀
- 10 世界大戦の時代
- 11 ドイツ語圏の文化と思想(3)
- 12 ヒトラーとホロコースト(1)
- 13 ヒトラーとホロコースト(2)
- 14 戦後ドイツ
- 15 まとめ

**6. 成績評価方法：**

おおむね、出席（30％）と期末レポート（70％）。

**7. 教科書および参考書：**

参考書としては、坂井栄一郎『ドイツ 10 講』、岩波新書、2003 年。その他は、授業中に指示する。

**8. 授業時間外学習：**

特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、日常的にこの「世界」の現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。

**9. その他：**

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることを。

m2rt@tohoku.ac.jp （森本浩一）

xkc-

科目名：ドイツ語学概論 I / German Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LB33201, 科目ナンバリング：LHM-LIT206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中級ドイツ文法

2. Course Title (授業題目)：

Intermediate German Grammar

3. 授業の目的と概要：

初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 人称代名詞・指示代名詞・不定代名詞
- 3 非人称の es (1)
- 4 非人称の es (2)
- 5 関係代名詞 (1)
- 6 関係代名詞 (2)
- 7 冠詞類
- 8 形容詞の格変化
- 9 冠飾句
- 10 前置詞 (1)
- 11 前置詞 (2)
- 12 副詞 (1)
- 13 副詞 (2)
- 14 接続詞 (1)
- 15 接続詞 (2)

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』（三省堂）

8. 授業時間外学習：

予習をする必要はない。復習をしてください。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。

9. その他：

**科目名：ドイツ語学概論Ⅱ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅱ**

**曜日・講時：**後期 水曜日 2 講時

**セメスター：**4, **単位数：**2

**担当教員：**嶋崎 啓 (教授)

**講義コード：**LB43201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT207J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

中級ドイツ文法

**2. Course Title (授業題目)：**

Intermediate German Grammar

**3. 授業の目的と概要：**

初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。

**4. 学習の到達目標：**

ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 ガイダンス
- 2 動詞の変化
- 3 命令法
- 4 話法の助動詞 (1)
- 5 話法の助動詞 (2)
- 6 話法の助動詞 (3)
- 7 分離動詞・非分離動詞 (1)
- 8 分離動詞・非分離動詞 (2)
- 9 受動態 (1)
- 10 受動態 (2)
- 11 再帰動詞 (1)
- 12 再帰動詞 (2)
- 13 機能動詞
- 14 語順
- 15 否定文

**6. 成績評価方法：**

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

**7. 教科書および参考書：**

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)

**8. 授業時間外学習：**

予習をする必要はない。復習をしてください。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。

**9. その他：**

科目名：ドイツ語学基礎講読Ⅰ／ German Linguistics (Introductory Reading)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB32104, 科目ナンバリング：LHM-LIT221J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目)：

German Literature (Introductory Reading)Ⅰ

3. 授業の目的と概要：

全学教育で身につけたドイツ語能力を安定させて発展させる。

学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。

4. 学習の到達目標：

A2 レベルのドイツ語力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第1話

3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第2話

4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第3話

5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第4話

6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第5話

7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第6話

8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第7話

9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第8話

10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第9話

11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第10話

12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第11話

13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第12話

14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第13話

15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第14話

6. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

7. 教科書および参考書：

Enzensberger, H.M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt.

Rinvolucris&Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett.

Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern.

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：

科目名：ドイツ語学基礎講読Ⅱ／ German Linguistics (Introductory Reading)II

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB42103, 科目ナンバリング：LHM-LIT222J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目)：

German Literature (Introductory Reading)I

3. 授業の目的と概要：

全学教育で身につけたドイツ語能力を安定させて発展させる。

学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。

4. 学習の到達目標：

A2 レベルのドイツ語力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者の ドイツ語能力確認

2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 15 話

3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 16 話

4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 17 話

5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 18 話

6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 19 話

7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 20 話

8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 21 話

9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 22 話

10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 23 話

11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 24 話

12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 25 話

13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 26 話

14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 27 話

15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 28 話

6. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

7. 教科書および参考書：

Enzensberger, H.M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt.

Rinvolucris&Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett.

Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern.

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：

**科目名：ドイツ文学各論 I / German Literature (Special Lecture) I**

**曜日・講時：**前期 火曜日 2 講時

**セメスター：**5, **単位数：**2

**担当教員：**佐藤 雪野 (兼務教員)

**講義コード：**LB52204, **科目ナンバリング：**LHM-LIT306J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史 (3)

**2. Course Title (授業題目)：**

Culture and History of German Cultural Sphere (3)

**3. 授業の目的と概要：**

広い意味でのドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ (語) 文化圏に着目する。

今学期はヨーロッパ東部に居住している (いた) ドイツ人が、なぜそこに移り住んだのか、周辺異民族とどのように交流しつつ、自らの文化を維持し、発展させ、アイデンティティを形成したかを検討する。

そのために、ドイツ語で書かれたテキストを精読し、ドイツ語の読解力も高める。

**4. 学習の到達目標：**

1. ドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション

2. Die Siedlung Deutscher in Osteuropa

3. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (1)

4. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (2)

5. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (3)

6. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (4)

7. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (5)

8. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (6)

9. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (1)

10. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (2)

11. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (3)

12. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (4)

13. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (5)

14. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (6)

15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

平常点 (出席、アサインメント、発言状況) : 70%

期末課題 : 30%

**7. 教科書および参考書：**

テキスト : Dralle, Lothar, Die Deutschen in Ostmittel- und Osteuropa: Ein Jahrtausend europäischer Geschichte, Darmstadt: Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1991.

その他参考書等については、随時指示する。

**8. 授業時間外学習：**

予習中心 : テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

**9. その他：**

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明 (オフィス・アワー、講師への連絡方法など) は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

**科目名：ドイツ文学各論Ⅱ／ German Literature (Special Lecture)Ⅱ**

**曜日・講時：**後期 火曜日 2 講時

**セメスター：**6, **単位数：**2

**担当教員：**佐藤 雪野（兼務教員）

**講義コード：**LB62204, **科目ナンバリング：**LHM-LIT307J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

ドイツ（語）文化圏の文化と歴史（4）

**2. Course Title（授業題目）：**

Culture and History of German Cultural Sphere（4）

**3. 授業の目的と概要：**

広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

今学期はかつてプラハに存在したドイツ文化空間の特性を、ユダヤ人との関係に注目しつつ検討する。

そのために、初版が 1916 年に出版されたグスタフ・マイリンクの『ゴーレム』をテキストとして精読し、作品とその背景を考察する。

**4. 学習の到達目標：**

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。
2. ドイツ語の読解力を向上させる。
3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハのドイツ語文学について
3. グスタフ・マイリンクとゴーレム
4. Golem: Prag (1)
5. Golem: Prag (2)
6. Golem: Prag (3)
7. Golem: Punsch (1)
8. Golem: Punsch (2)
9. Golem: Punsch (3)
10. Golem: Punsch (4)
11. Golem: Nacht (1)
12. Golem: Nacht (2)
13. Golem: Nacht (3)
14. Golem: Wach
15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

**7. 教科書および参考書：**

テキスト：Meyrink, Gustav, Golem, Augsburg: Weltbild, 1994. 他の版でも可。

その他参考書等については随時指示する。

**8. 授業時間外学習：**

予習中心：テキストをよく読んでおくこと。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

**9. その他：**

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

**科目名：ドイツ文学各論Ⅲ／ German Literature (Special Lecture)Ⅲ**

**曜日・講時：**後期集中 その他 連講

**セメスター：**集中(6), 単位数：2

**担当教員：**里村 和秋 (非常勤講師)

**講義コード：**LB98813, **科目ナンバリング：**LHM-LIT308J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

近現代ドイツ・オーストリア文学概論

**2. Course Title (授業題目)：**

Modern literature and culture of German and Austrian language Sphere

**3. 授業の目的と概要：**

中欧に位置するドイツおよびオーストリアは、民族の大移動以来、地政学的な条件から、周辺各国との間で相互に大きな影響関係を持ちながら独自の文化を形成してきた。この授業では、「ヨーロッパ」の文脈を意識しながら、19世紀以降のドイツおよびオーストリアの文学を概観し、文学作品の読解・分析を通じて、それぞれの作家の文学作品のテーマや様式の特徴を把握することを目的とする。特に同じドイツ語圏にありながら、ドイツ文学とは異なる特徴を持つオーストリア文学について、その歴史的経緯や文化的背景との関連からアプローチする。

**4. 学習の到達目標：**

近現代のドイツ語圏の文学作品を概観しながら、学習者は、言語やアイデンティティ、社会や政治などの問題が文学作品にどのように反映しているかを確認し、その特徴を理解できるようにする。特に、ドイツ文学と深い影響関係を持ちながらも異なる発展を遂げたオーストリア文学について、その知識を深める。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 ガイダンス (近現代オーストリア・ドイツ文学の諸問題)
- 2 ビーダーマイヤー期 (グリルパルツァー・シュティフター)
- 3 ウィーン民衆劇1 (ライムント)
- 4 ウィーン民衆劇2 (ネストロイ)
- 5 カフェ文化と文学
- 6 世紀末オーストリア文学
- 7 アルトウール・シュニッツラー
- 8 ホフマンスタール1 (概論)
- 9 ホフマンスタール2 (散文作品)
- 10 ホフマンスタール3 (演劇作品)
- 11 ウィーンと都市問題
- 12 ナチスとプロパガンダ
- 13 ヘッセ1 (前期)
- 14 ヘッセ2 (後期)
- 15 まとめ

**6. 成績評価方法：**

授業時の平常点 40%と期末レポート 60%によって評価を行う。平常点は、授業において扱うテキストを正確に理解できているかどうかを評価する。期末レポートでは、課題に従って、説得力のある論理的な議論が展開できているかどうかを評価する。

**7. 教科書および参考書：**

教科書：プリントを配布する。参考書：原研二『物語と不在—十九世紀オーストリア小説とミュージル』、クラウドディオ マグリス『オーストリア文学とハプスブルク神話』、田口 晃『ウィーン—都市の近代』 (岩波新書)、飯田 道子『ナチスと映画』 (中公新書)など。

**8. 授業時間外学習：**

授業ではテキストの講読も行うので、講義に先立って配布するテキストをあらかじめ読んでおくこと。また講義終了後提出する期末レポートについてテーマを選定し、そのための事前調査・資料収集を行っておくこと。

**9. その他：**

事前の授業に関する問い合わせは、satomura@law.seikei.ac.jp までお願いします。

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB51301, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カフカを読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Kafka

3. 授業の目的と概要：

フランツ・カフカの小説作品を対象として、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ドイツ文学作品の読解力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 導入

第2回～第14回 テキストの講読

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加（70％）とレポート（30％）。

7. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備する。

8. 授業時間外学習：

毎回、事前に訳読の準備をして出席すること。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp  
(森本浩一)

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB61302, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カフカを読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Kafka

3. 授業の目的と概要：

フランツ・カフカの小説作品を対象として、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ドイツ文学作品の読解力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 導入

第2回～第14回 テキストの講読

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加（70％）とレポート（30％）。

7. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備する。

8. 授業時間外学習：

毎回、事前に訳読の準備をして出席すること。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp  
(森本浩一)

**科目名：ドイツ文学演習 I / German Literature (Seminar) I**

**曜日・講時：**前期 金曜日 3 講時

**セメスター：**5, **単位数：**2

**担当教員：**森本 浩一（教授）

**講義コード：**LB55304, **科目ナンバリング：**LHM-LIT323J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

フィクションの物語を批評する 1

**2. Course Title (授業題目)：**

Doing a criticism of the fictional narrative

**3. 授業の目的と概要：**

様々なフィクションの物語を実際に読んだり見たりして、その解釈を行い「批評」的なテキストを書く訓練を行う。特に、メディアの特性による物語経験の違いに焦点をあて、形式と内容の両面から作品について論述する方法を検討する。参加者の発表をメインとし、参加者相互および教員との討議によって授業を進める。

**4. 学習の到達目標：**

物語のメディア的側面に対する感受性が高まり、作品を批評する技倆が向上する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入
2. メディア比較
3. メディア比較
4. 自由課題批評
5. 自由課題批評
6. 自由課題批評
7. 映画を批評する
8. 映画を批評する
9. 小説を批評する
10. 小説を批評する
11. マンガを批評する
12. マンガを批評する
13. 映画を批評する
14. 映画を批評する
15. 長篇小説を批評する

**6. 成績評価方法：**

おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加（80%）およびレポート（20%）。

**7. 教科書および参考書：**

必要に応じて授業中に指示する。

**8. 授業時間外学習：**

各人の批評文を素材として授業を行うので、指定された提出物は必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。

**9. その他：**

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp  
（森本浩一）

科目名：ドイツ文学演習Ⅱ／ German Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB65303, 科目ナンバリング：LHM-LIT324J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フィクションの物語を批評する 2

2. Course Title (授業題目)：

Doing a criticism of the fictional narrative

3. 授業の目的と概要：

様々なフィクションの物語を実際に読んだり見たりして、その解釈を行い「批評」的なテキストを書く訓練を行う。特に、メディアの特性による物語経験の違いに焦点をあて、形式と内容の両面から作品について論述する方法を検討する。参加者の発表をメインとし、参加者相互および教員との討議によって授業を進める。

4. 学習の到達目標：

物語のメディア的側面に対する感受性が高まり、作品を批評する技倆が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 導入

第2回～第14回 参加者各人の個別発表と討議

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

個人発表および各回の討議への参加と応答文の提出（80%）、自らの発表をもとにした最終レポート（20%）。

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

最低一回は個別発表が課されるので、その事前準備を行うこと。各人の発表作品を事前に読んで（見て）おくこと。各回の発表に対する応答文を次回授業前日までにメール添付で提出すること。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp  
(森本浩一)

科目名：ドイツ文学演習Ⅲ／ German Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：佐藤 研一（非常勤講師）

講義コード：LB54403, 科目ナンバリング：LHM-LIT325J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

十八世紀ドイツ戯曲の誕生—— レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(II)

2. Course Title (授業題目)：

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (II)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング (1729–81) の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) を前年度にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772) を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『

4. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

1. オリエンテーション

2. Zweiter Aufzug, Erster Auftritt

3. Zweiter Aufzug, Erster Auftritt

4. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

5. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

6. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

7. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

8. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

9. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

10. Zweiter Aufzug, Dritter Auftritt, Vierter Auftritt, Fünfter Auftritt

11. Zweiter Aufzug, Sechster Auftritt

12. Zweiter Aufzug, Siebenter Auftritt, Achter Auftritt

13. Zweiter Aufzug, Neunter Auftritt

14. Zweiter Aufzug, Neunter Auftritt

15. Zweiter Aufzug, Neunter Auftritt

6. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]

7. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) はプリントで配布する。  
参考文献はつぎのとおり。

・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004.

・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vor

8. 授業時間外学習：

古代ギリシア悲劇から現代劇まで貪欲に戯曲の世界と触れること。

9. その他：

**科目名：ドイツ文学演習Ⅳ／ German Literature (Seminar)Ⅳ**

**曜日・講時：**後期 木曜日 4 講時

**セメスター：**6, **単位数：**2

**担当教員：**佐藤 研一 (非常勤講師)

**講義コード：**LB64402, **科目ナンバリング：**LHM-LIT326J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(III)

**2. Course Title (授業題目)：**

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (III)

**3. 授業の目的と概要：**

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング (1729-81) の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) を前学期にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772) を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『

**4. 学習の到達目標：**

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

1. オリエンテーション

2. Dritter Aufzug, Erster Auftritt, Zweiter Auftritt

3. Dritter Aufzug, Zweiter Auftritt

4. Dritter Aufzug, Zweiter Auftritt

5. Dritter Aufzug, Dritter Auftritt

6. Dritter Aufzug, Dritter Auftritt, Vierter Auftritt

7. Dritter Aufzug, Vierter Auftritt

8. Dritter Aufzug, Fünfter Auftritt

9. Dritter Aufzug, Fünfter Auftritt, Sechster Auftritt

10. Dritter Aufzug, Siebenter Auftritt

11. Dritter Aufzug, Siebenter Auftritt

12. Dritter Aufzug, Siebenter Auftritt

13. Dritter Aufzug, Achter Auftritt, Neunter Auftritt, Zehnter Auftritt

14. Dritter Aufzug, Zehnter Auftritt

15. Dritter Aufzug, Elfter Auftritt, Zwölfter Auftritt

**6. 成績評価方法：**

レポート [30%]・出席 [70%]

**7. 教科書および参考書：**

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) はプリントで配布する。

参考文献はつぎのとおり。

・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004.

・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vor

**8. 授業時間外学習：**

古代ギリシア悲劇から現代劇まで貪欲に戯曲の世界と触れること。

**9. その他：**

科目名：ドイツ語学演習Ⅰ／ German Linguistics (Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB53308, 科目ナンバリング：LHM-LIT327J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

ドイツ語学演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Linguistics (Seminar)Ⅰ

3. 授業の目的と概要：

2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。

読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. 学習の到達目標：

B1 レベルのドイツ語を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Kaufen I – Beschreibungen
2. Kaufen II – Farben
3. Kaufen III – Kaufen
4. Kaufen IV – Reklamieren
5. Kaufen V – Nacherzählen
6. Kaufen VI – Rhythmusgruppen
7. Kaufen VII – Adjektive
8. Kaufen VIII – Artikel
9. Kaufen IX – Fragewörter
10. Kaufen X – Modalverben
11. Krankheit I – Beschwerden nennen
12. Krankheit II – Witz erzählen
13. Krankheit III – Bild beschreiben
14. Krankheit IV – Text zusammenfassen
15. Krankheit V – Gedicht

6. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

7. 教科書および参考書：

Stufen International 2

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：

教材の事前購入を勧める

科目名：ドイツ語学演習Ⅱ／ German Linguistics (Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB63309, 科目ナンバリング：LHM-LIT328J, 使用言語：2カ国語以上

1. 授業題目：

ドイツ語学演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Linguistics (Seminar)I

3. 授業の目的と概要：

2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。

読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. 学習の到達目標：

B1レベルのドイツ語を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Krankheit VI - Orthographie
2. Krankheit VII - Lange und kurze Vokale
3. Krankheit VIII - Passiv
4. Krankheit IX - Relativsatz
5. Krankheit X - Konjunktiv
6. Klima I - Wettererscheinungen benennen
7. Klima II - Geschichte zu Bildern erfinden
8. Klima III - Pro und Kontra Diskussion
9. Klima IV - literarischer Text
10. Klima V - Erlebnisbericht
11. Klima VI - Brief
12. Klima VII - Wortakzent und Satzakzent
13. Klima VIII - Präpositionen
14. Klima IX - Komparation
15. Klima X - Plusquamperfekt

6. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

7. 教科書および参考書：

Stufen International 2

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：

教材の事前購入を勧める

**科目名：ドイツ語学演習Ⅲ／ German Linguistics (Seminar)Ⅲ**

**曜日・講時：**前期 月曜日 2 講時

**セメスター：**5, **単位数：**2

**担当教員：**嶋崎 啓 (教授)

**講義コード：**LB51207, **科目ナンバリング：**LHM-LIT329J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

中高ドイツ語講読

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading "Nibelungelied" in middle high German

**3. 授業の目的と概要：**

ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200 年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。

**4. 学習の到達目標：**

中高ドイツ語の文構造が理解できる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1
- 3 中高ドイツ語入門 2
- 4 中高ドイツ語入門 3
- 5 「ニーベルンゲンの歌」講読 1
- 6 「ニーベルンゲンの歌」講読 2
- 7 「ニーベルンゲンの歌」講読 3
- 8 「ニーベルンゲンの歌」講読 4
- 9 「ニーベルンゲンの歌」講読 5
- 10 「ニーベルンゲンの歌」講読 6
- 11 「ニーベルンゲンの歌」講読 7
- 12 「ニーベルンゲンの歌」講読 8
- 13 「ニーベルンゲンの歌」講読 9
- 14 「ニーベルンゲンの歌」講読 10
- 15 「ニーベルンゲンの歌」講読 11

**6. 成績評価方法：**

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

**7. 教科書および参考書：**

テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997.

参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、『ニーベルンゲンの歌』（相良守峯訳）岩波文庫、『ニーベルンゲンの歌』（岡崎忠弘役）鳥影社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.

**8. 授業時間外学習：**

前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をすること。

**9. その他：**

講読する箇所は先学期からの続きである。

**科目名：ドイツ語学演習Ⅳ／ German Linguistics (Seminar)Ⅳ**

**曜日・講時：**後期 月曜日 2 講時

**セメスター：**6, **単位数：**2

**担当教員：**嶋崎 啓 (教授)

**講義コード：**LB61204, **科目ナンバリング：**LHM-LIT330J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

中高ドイツ語講読

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading "Nibelungenlied" in middle high German

**3. 授業の目的と概要：**

ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200 年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。

**4. 学習の到達目標：**

中高ドイツ語の文構造が理解できる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1
- 3 中高ドイツ語入門 2
- 4 中高ドイツ語入門 3
- 5 「ニーベルンゲンの歌」講読 1
- 6 「ニーベルンゲンの歌」講読 2
- 7 「ニーベルンゲンの歌」講読 3
- 8 「ニーベルンゲンの歌」講読 4
- 9 「ニーベルンゲンの歌」講読 5
- 10 「ニーベルンゲンの歌」講読 6
- 11 「ニーベルンゲンの歌」講読 7
- 12 「ニーベルンゲンの歌」講読 8
- 13 「ニーベルンゲンの歌」講読 9
- 14 「ニーベルンゲンの歌」講読 10
- 15 「ニーベルンゲンの歌」講読 11

**6. 成績評価方法：**

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

**7. 教科書および参考書：**

テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997.

参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、『ニーベルンゲンの歌』（相良守峯訳）岩波文庫、『ニーベルンゲンの歌』（岡崎忠弘役）鳥影社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.

**8. 授業時間外学習：**

前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をすること。

**9. その他：**

講読する箇所は先学期からの続きである。